

いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」 ルカ
による福音書 第2章14節

暗い夜。羊飼いたちは町の明かりを遠くに眺めながら、羊の番をします。羊飼いたちは人々から差別を受け、辛い思いをしていました。なぜかと言うと、羊の世話のため、イスラエルの律法で定められている、決まった時に神殿に行く、ということが出来なかったからです。それで人々から、羊飼いたちは信仰的に劣った人だ、と見られていたのです。羊飼いたちはどんな気持ちで町の明かりを見ていたでしょう。差別され、誰にも受け入れてもらえない。寂しさに押し潰されそうでした。

しかしその時、暗い夜を引き裂くようにして、光の天使の大軍が現れて言いました。「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」。天使は、誰よりも早く、寂しさの中にある羊飼いたちに、イエス様のお生まれのクリスマスの喜びを告げてくれたのです。それは神様が、寂しい思いの人にこそ最初に、救いの喜びを教えてくれるということです。この喜びを知った羊飼いたちは、もう遠くに光を眺めているだけではない。「**さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか**」(2・15)と言って、新しい一歩を踏み出せるのです。その歩みの先に、救い主イエス様がいます。

この羊飼いのクリスマスの物語は、あなたのクリスマスの物語でもあるのです。

遠州教会 牧師 石井佑二